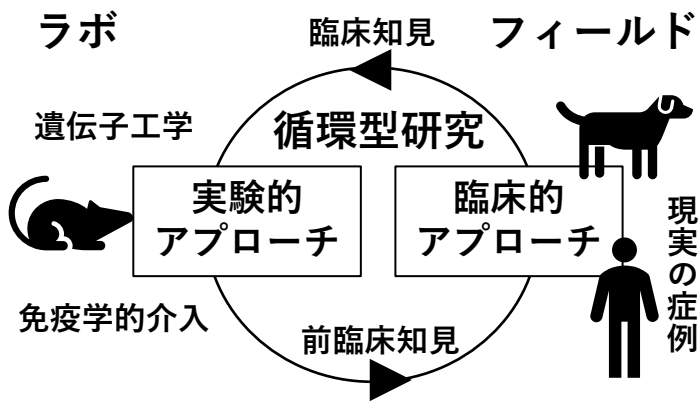
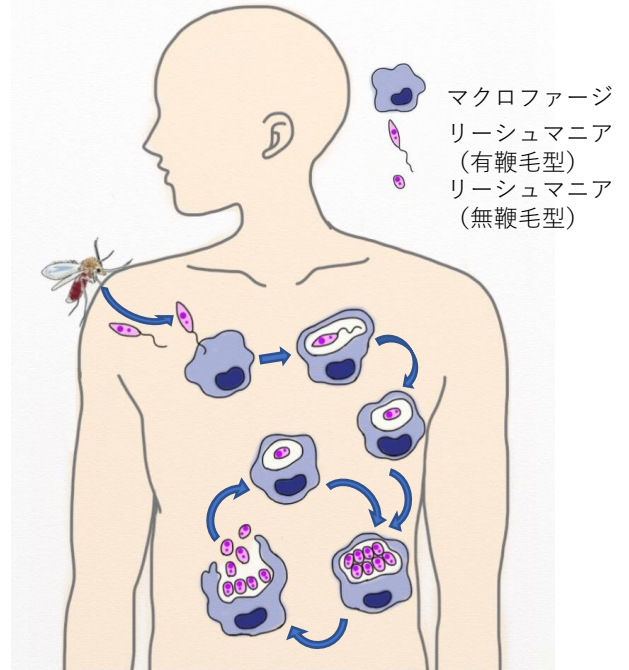


リーシュマニア症

- 原虫感染による重篤な人獣共通感染症
- 年間70-100万人の新規患者
- 皮膚症状から全身症状まで多様な病態

→対策には実験モデルを介した原虫感染の本質的理解とそれに基づく臨床応用法の開発が必要



その方法として

①寄生虫を理解する

- 寄生虫はどうやって宿主体内での生存を可能としているのか？
- 感染がどうやって症状につながるのか？

②寄生虫を何とかする

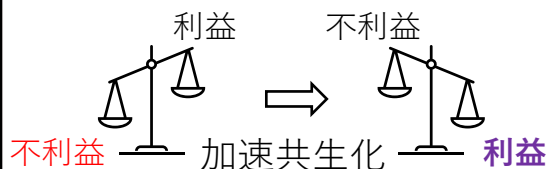
- どうすれば寄生虫の増殖を制限できるか？
- どうすれば寄生虫の感染による症状を緩和できるか？

③寄生虫を利用する

- 寄生虫がもつ免疫修飾能力は他疾患の治療に応用できないか？

これらがうまく行けば

寄生虫 (不利益 > 利益) から共生生物 (不利益 < 利益) への概念的・生物学的転換も可能？



利益の強化

- 有用物質の同定を介した利益的側面の正しい理解
- 有用物質の利用を介した利益的側面の正しい活用

不利益の抑制

- 病原性因子欠損寄生虫の作製を介した疾病制御
- 病態の理解に基づく寄生体排除を介さない疾病制御